

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター  
第6回 公開研究会

# 『20世紀日本における知識人と教養』 (丸山眞男研究プロジェクト全事業報告書) 合 評 会

日時： 2017年7月22日 **土**  
14:00～17:00

会場： 東京女子大学23号館1階  
**23101教室**

参加： 丸山眞男研究プロジェクト参加研究者

司会： 河野 有理 氏  
(首都大学東京教授)

**申込不要・入場無料**

お問合せ先

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター  
〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1  
☎03-5382-6817 ☎03-5382-6120  
✉marubun@lab.twcu.ac.jp  
🌐<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/institute/maruyama-center/>

\* 事務取扱時間：月・水・木曜日（10:30～16:30）8月休み

ACCESS



▼ J R 西荻窪駅北口より徒歩約12分。  
▼ バスの場合は西荻窪駅北口より吉祥寺駅行きバス / J R ・ 京王  
井の頭線吉祥寺駅より西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車。

# 概要

東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターは、文部科学省「平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」として、2012～2016年度、「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」（略称「丸山眞男研究プロジェクト」）を進めてきました。丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究およびデジタルアーカイブの構築、また同資料を活用して20世紀知識人の教養と学問のあり方の究明を目的としたものです。

本年3月、プロジェクトの完結にあたり、全事業報告書『20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—』を刊行しました。今回、一般公開の研究会として、本書に掲載された論文の合評会を開催します。

## ..... 主な掲載論文 .....

- ・安藤信廣「幕末期知識人の対外認識—吉田松陰と『聖武記附録』『伊娑菩喩言』—」
- ・雨田英一「戦後日本における民主化と教養・文化・教育をめぐる論議—丸山眞男を中心として—」
- ・小檜山ルイ「『人格』という概念—その系譜をめぐる試論—」
- ・油井大三郎「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」
- ・苅部直「村岡典嗣と丸山眞男」
- ・渡辺浩「丸山眞男における「原理」・「主体」・「秩序」」 (ほか)

丸山眞男研究プロジェクトの詳細は以下のホームページよりご覧いただけます。

<http://office.twcu.ac.jp/univ/research/project/maruyama-project/>

全事業報告書『20世紀日本における知識人と教養』（電子版）は以下のページからダウンロードできます。

[http://office.twcu.ac.jp/univ/research/institute/maruyama-center/event/intellectuals\\_and\\_kyoyo.pdf](http://office.twcu.ac.jp/univ/research/institute/maruyama-center/event/intellectuals_and_kyoyo.pdf)

各論文の執筆者と、他のプロジェクト参加研究者がそれぞれコメントと応答を行います。フロアからの質疑と応答の時間も設ける予定です。



丸山眞男 YWCAにて(1949年)  
『丸山眞男集』第4巻(岩波書店)所収

## 丸山眞男文庫

丸山眞男の思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、国際的な丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。2012年4月より2017年3月まで、研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」（略称「丸山眞男研究プロジェクト」）を実施、2015年には、丸山眞男文庫バーチャル書庫 (<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/shoko>)、丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブ (<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/archives>) を公開しました。

## 丸山眞男 (1914-1996)

20世紀の日本が生んだ世界的な学者・思想家。父・幹治は戦前の代表的政論記者。その友人・長谷川如是閑の薫陶を受けて育ちました。日本学士院会員、ハーバード大学・プリンストン大学名誉博士、東京大学名誉教授。主著『日本政治思想史研究』『現代政治の思想と行動』は数ヶ国語に翻訳され、広く世界中に読者をもっています。『日本の思想』は岩波新書中でも超ロングセラーの一つです。

南原繁の勧めで日本政治思想史を専攻し、徳川時代における近代的思惟の形成を実証して、この学問分野の確立に資しました。また治安維持法による検挙・勾留や一兵卒としての兵營生活の経験などをふまえ、近代日本の天皇制的精神構造を内側から分析し、「抑圧移譲の原理」や「無責任の体系」の仕組みを解明しました。さらに福澤諭吉研究を通して明治維新がもつ今日的意義を明らかにし、自発的結社を核とした「市民社会」の形成や「精神的貴族主義」の必要を強調しました。永久革命としての民主主義の主張、また戦後の大衆社会状況下での人々の原子化と大衆民主主義の陥穽（画一化）の指摘はこれと裏腹の関係にあります。米ソ冷戦の最中に、政治的リアリズムの観点から日本国憲法第九条のもつ世界史的意義を高唱し、国際秩序の再編を構想しました。